

記者懇談会の記録

日 時	令和 6 年 5 月 24 日（金） 15：30～16：05
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	8 人

1 南空知圏域における定住自立圏に向けた中心市宣言について

（市長）

岩見沢市を含む南空知 9 市町での定住自立圏の形成に向けて、岩見沢市がその中心市として役目を担っていくことに対する中心市宣言を本日いたしましたので、その内容についてお手元の資料に沿ってご説明します。

まず、定住自立圏については（1）に記載のとおり、人口減少や少子高齢化の影響が著しい地方圏において、都市機能を有する「中心市」と近隣市町が役割分担と相互補完を行い、圏域全体で必要な生活機能を確保する取り組みであり、全国で既に 130 圏域、道内では 13 圏域が形成されているところです。

次に（2）定住自立圏形成までの流れですが、本日中心市宣言を公表しましたので、今後、連携が想定される各分野に通じた委員で構成する共生ビジョン懇談会を設置し、そこでの議論を経まして、岩見沢市と各市町との間で協定を締結するとともに、南空知圏域の将来の姿やそこに向けた具体的な取り組みについて定める共生ビジョンを策定する予定です。

次に（3）中心市宣言の内容についてですが、要旨としては、まず一つ目として、南空知圏域の人口が縮小する中、9 市町で共通のビジョンを持ち、豊かな未来を築くこと、次に二点目として、行政事務の効率化や経営資源の共同利用等、地域課題に広域的に取り組み、住民に対する質の高いサービスの持続的な提供を図ること、次に三つ目として、将来にわたって、誰もが安心して暮らし続けられる、活気ある南空知圏域の形成に向けて岩見沢市と近郊 8 市町が手を取り合うこと、最後に四つ目となりますが、岩見沢市は地域の拠点都市としての役割を果たし、南空知圏域の形成に取り組むこと、以上の点を宣言しており、これに加えて、資料に記載のとおり、都市機能の集積状況等について記載しています。詳しくは配付の「中心市宣言書」をご確認ください。

次に（4）ですが、先ほどお話しました共生ビジョン懇談会は、6 月から 7 月をめどに設置する予定としています。委員の人選については、これからとなりますが、概ね 15 名程度で構成し、医療、教育、経済など、連携が想定される各分野の方々にご参加いただく予定です。また、分野によっては、当市以外の構成市町の方々にもご参加いただくつもりです。共生ビジョン懇談会については、詳細が決まり次第、ホームページで公表いたしますので、ご確認ください。

最後に（5）のスケジュールですが、来年 1 月頃までに懇談会での議論を行い、各市町との協定締結と共生ビジョンの策定は来年 3 月下旬を予定しており、令和 7 年度から定住自立圏としての取り組みを南空知全体で進めていく予定です。

<質疑応答>

(北海道新聞)

定住自立圏を作ることで、こういった連携が今後具体的に考えられると市長は思いですか。

(市長)

共生ビジョンの中でいくつかの項目が挙げられていますが、これまで定住自立圏の形成に向けて、広域連携加速化実証事業に取り組んできていますけれども、基本的な考えは、それぞれの市と町の役割分担と相互補完と考えています。例えば医療であれば、夜間や休日における救急診療体制の確保ですとか、教育ではスポーツ施設などの相互利用ですとか、あるいは産業では圏域全体の観光や食、物産品等の付加価値向上、また人材育成では職員研修の合同実施など。ただこれは、現時点では想定していますが、あくまでも具体的には共生ビジョン懇談会の中で協議をして決めることとしています。

(北海道新聞)

関連してなのですが、今南空知の圏域を構成する自治体の中でも三笠市さんですとか、美瑛市さんですとか、ちょうど病院を建て替えたところも多くありますが、そういった部分での役割分担ですとか、そういったものについては今後検討されるのでしょうか。

(市長)

それは定住自立圏とは別に、医療圏構想の中でいろいろ役割分担の議論などはしていますし、そこでいろいろ意見交換しながら協力していくことになるのかなと思います。

(北海道新聞)

改めて、なぜ今このタイミングでその自立圏を作ることにされたのかについてお伺いしたいのと、もう一点、行政事務のお話をされていましたが、いろいろな分野があるかと思います。水道とか、ごみとかですね。その中のどの辺の分野をより掘り下げて話をされていくかということも併せてお伺いできればと思います。

(市長)

中心市宣言がなぜこの時期になったか、定住自立圏の形成ですね。空知では北空知と中空知は既に定住自立圏を形成していますが、定住自立圏には中心市となる要件が定められていまして、これは国勢調査ごとの人口等を基に設定されるのですが、一つは人口 5 万人以上であること、これは、岩見沢市は当然満たしているのですが、昼夜間人口比率が 1 以上、そして尚且つ三大都市圏の区域外であること、ですから定住自立圏については先ほど申し上げた通り、圏域全体の人口が縮小していく中で、行政サービスを持続可能な形で提供することについてもやはり連携をして取り組む必要があるというのは、私自身も強く認識をしているところですが、前々回の平成 27 年の国勢調査人口では、実は昼夜間人口比率 1 以上というのがクリアできていなかったんです。ほんの僅か、コンマ 03、それぐらいなのですが、クリアできていなくて、その特例要件にも少し足りなかったということがあったので、なりたくても定住自立圏の要件を満たさないということがありました。ただ令和 2 年の国勢調査で、特例要件を適用してその条件をクリアしましたので、

その後いろいろ検討し、また各市町とも協議を重ねて、タイミング的には今回、ちょうど加速化実証事業が令和 6 年度までで終わりますので、そこからスムーズに定住自立圏に行けるようなタイミングで今回中心市宣言を行ったということになります。

それから、これまでも加速化実証事業の中で防災と公共交通と ICT インフラの 3 部門については取り組んできたのですが、共通ビジョンの中で代表的なのは、先ほど申し上げたように、医療、教育、産業ですとか、それからやはりそれぞれの自治体が基礎的自治体として提供するサービス、例えばシステムの問題ですとか、いろいろと連携することによって、より持続可能なサービスの提供が可能になるのではないかと、そういった観点も含めてやっていきたいと思っています。

あと、定住自立圏になると特別交付税措置がつきます。地方財政措置ですけれども、中心市が 8,500 万円程度、アッパーですが。それから近隣市町も 1,800 万円程度の財政措置がつきますので、それを活用したり、あるいは定住自立圏ということで優先採択の対象になったり、そういったメリットもありますし。やはり役割分担と相互補完だと思います。行政事務に関して言えば効率化を図る上では一定のスケールメリットも得られる可能性があるのではないかと考えています。

(プレス空知)

共生ビジョン懇談会を 7 月までに設置してということですが、岩見沢市以外の構成市町からの委員を選出、これは他の 8 市町から 1 人ずつというイメージで入っていただくのでしょうか。

(市長)

これは基本的には圏域全体を見通しての懇談会になりますので、各市町からということよりも、その分野に精通している方を委員としてご参画いただくことが第一義的には必要なと思います。

ただ、分野によっては複数の町にまたがっている事業などもございますし、そういった場合には各市町からの方も含めて、これについても人選については岩見沢市で単独で決めるということではなくて、他の市町と協議しながら決めていくというようなことを考えています。

(プレス空知)

他の市町からも入ってもらうこともあるような、先ほどの説明だったので、中心市になって広域でやるのであれば、そういったところからも入った方がよりスムーズにいくのかなと思ったので確認しました。ありがとうございます。

(市長)

それから先ほど道新さんのおっしゃっていた、水道とかごみとかですけれども、水道は水道でそれぞれの水道企業体で運営しています。岩見沢で言えば桂沢水道企業団を作って岩見沢市と三笠市は全域、美瑛市は一部、それが水道企業団ということで広域行政を行っています。

ゴミ処理については、岩見沢の焼却施設の利用については、美瑛市さんと月形町さんで行っています。ゴミ処理自体を広域事業化している例えば千歳市さんとか恵庭市さんとか由仁町さんですとか、それぞれの分野ごとで一部事務組合を作って運用している例もありますから、それはそれとして、ということになろうかと思っています。

2 岩見沢市内における農作業（春作業）の進捗状況について

（市長）

先日も市内の田植え状況の視察に行っていました。今年の春の農作業等の進捗状況について、です。

これも資料に沿って、1の融雪期ですが、本年は平年より2日遅い4月1日に融雪期を迎え、融雪が順調に進んだこともあり、春作業は概ね順調に開始されたということになります。2月が、雪が少なく高温の日があったのに比べると、3月に低温が続いたので、一時期は融雪の遅れをかなり懸念していたのですが、結果としては、平年より2日遅い4月1日に融雪期を迎えたという状況でした。

そこで、空知農業改良普及センターが取りまとめた農作物生育状況調査ですが、2の水稻については、播種作業が4月21日から始まり、平年どおりの4月26日に、苗の播種作業は終わったということで、苗の生育は順調で、移植作業、田植えは、平年並みの5月17日頃に始まり、現在市内全域で田植えが進んでいます。農協の関係者の方にお聞きしましたら、概ね今週くらいでいたいを終えるのではないかというお話でした。

3の玉ねぎですが、移植が4月13日から始まり、平年より2日早い4月29日に順調に作業を終えています。移植後は、強風による葉先枯れが散見されましたが、適度な降雨と適温により活着が良好で、順調な生育とお聞きしています。

4の秋播き小麦ですが、雪腐病の発生が例年よりも多い状況ですが、融雪後の気温が高く推移したことによって、生育は平年より5日程度早くなっているということでした。

<質疑応答>

（プレス空知）

玉ねぎの移植の関係、移植後の活着なんですけれども、この時点で早生、晩生、全部終わっているということですね。時期にもよるでしょうが、極早生、早生は比較的影響はないかなと、むしろ晩生の方は少し気温が足りなかったかなとか、水が足りないかなとか、あったりするのでしょうか。

（市長）

今のところそこは、玉ねぎは順調だというのは農協の関係者の方にもお聞きしましたが。玉ねぎは今のところいいんですよという話はしていました。

（プレス空知）

昨日の田植えの激励でお話をしているいろいろ聞いていたとき、農協の方がやはり、この後も含めて雨がどの程度、ということ、適度に降ってくればいいんだけど、降らなすぎるのも困るし降り過ぎるのもちょっと大変だしとおっしゃっていて。

（市長）

そうなんですよね。ここ最近、6月に降雨の状況が多いとか、特に夏の気温の問題ですとか、い

ろいろな懸念事項があるんですけども、それを乗り越えて豊作の秋をお互い願っているというところです。

3 その他記者から質問

<質疑応答>

(プレス空知)

ヒグマの対策の関係で、奈井江町で猟友会と町の話し合いがうまく進んでいないと報じられていました。例えば、岩見沢市では住宅街というか市街地というか、そういうところにヒグマが来るとはあまり聞いた記憶がないんですけども、猟友会などとのそういう有事の際の協力の、書面等での取り交わしですとか、協力体制というのはどうなっているのか、現状そういったところが担保されているのかというのが気になったのですが、状況としてはいかがでしょうか。

(市長)

岩見沢市には、駆除団体と言いますか、東部丘陵地域を専門にする駆除の団体と、それから猟友会ということで、東部丘陵地域を除くエリアを活動エリアにする団体と二つあるんですけども、ヒグマの駆除に対しては1頭3万円の報償費を出しています。

またヒグマ以外でも、エゾシカにしろ、アライグマにしろ、いろいろあるわけですが、そういった駆除も協議をして予算についてはきちんと適切にしておりますし、それから、団体に対して別枠で補助も出していて、それがヒグマ等の情報があったときの出動ですとか、そういったことに適切に使われていますし、そのための人員配置もしていますので、今のところ猟友会関係から支障が、というようなお話は聞いていませんし、駆除したことについてはきちんと適正に支出もしていますし、今のところ支障のあるようなご意見も賜っていないということになりますね。

(農政部長)

はい。良好な関係を築いています。

(プレス空知)

町の報償についても、クマを捉えた後の解体等の費用も含めての金額として提示されている、いや、そういうわけではないという、そこで齟齬があるなどしているらしいのですが、この3万円の報償費の中には駆除して解体してという一連がすべて入っての3万円なののでしょうか。

(市長)

駆除した個体については焼却をしますので、焼却処理に運んでいただきます。そこまでの費用で3万円になります。

(プレス空知)

解体するのかわからないですが、要は駆除して焼却してもらうまでの流れを3万円で、1頭につきということですね。これはいわゆる大人子供のクマ、個体のサイズに関係なく、1頭と

ということでしょうか。

(市長)

そうです。はい。

(プレス空知)

奈井江でそういう話が出ていることに対して、行政の長として何かご助言というか、あるいはこんなふうになればいいという何かありますか。

(市長)

それぞれの自治体で有害鳥獣駆除の団体を作るとか、あるいは人員確保ですとか、例えばハンターの講習会に対する助成措置なども必要に応じてやっていますし、そういうのは自治体ごとなんだと思います。ルールがあってということではないので、やり方もさまざまです。ですから、ちょうど私、室蘭に出張している朝にそのニュースを見て、銃弾 1 発 1,800 円とかそんなこともあるのかなと思いながら見ていましたが、確かにいろいろなんだなと思っています。

ただ北海道内全体でヒグマの個数が増えていることと、やはり市街地への出没等もありますので、その土地土地の状況に応じてそれぞれ協議して決めるということに尽きるんだと思います。

(北海道新聞)

市長選に関して伺います。ちょうど事務所開きもされたということで、公約に関してもまとめられたということですが、8 本大きな柱があって、特に力を入れることがどの辺になるでしょうかというのを改めて。

(市長)

特に力といいますか、全体バランス良くと考えています。公約の実施状況等について総括して一度お話ししましたが、やはりきちんと結果が出せるように取り組むということになるのかなと。予算措置もすべて終わりました、学校等のエアコンについてはもう既に予算措置も含めて実施していますので、それはそれですけれども、やはり市立病院の道筋はきちんとつけていきたいと思っていますが課題山積だと思います。今釧路でも市立病院の建て替え問題というのがいろいろ出ていますけれども、釧路市さんも苦労してるとは思いますが、岩見沢市も本当に頑張っています。

公約自体の考え方も、岩見沢市の予算編成の議論もそうなのですが、急いで当面、来年これをやろうという予算編成よりは、むしろ 5 年先とか 10 年先に、こういったことを実現するためには来年度予算の中でどういうことをやって、どういうふうにステップアップしていくか、そういったことを考えながら各年の予算編成もしています。公約も同じだと認識していて、やはり持続可能な行政サービスを維持していくことですか、あるいは岩見沢市は教育大学もあるわけで、そのリソースをまちづくりに反映していくためにどうするか、あるいは経済を、市民生活の質の向上と地域経済の活性化、それを具体的にどうやるのか、それから除排雪も年々拡充しながら、やはりステージアップもありますが、レベルアップとネクストステージに向けてどういくのか、

それと今年、特に予算もそうですけれども、子育て支援をもっと利便性の高いサービスに高めていきたいという思いもありますし。あと岩見沢の特徴として産学官金という連携でやる事業が多いのと、それから国のプロジェクト指定なども積極的に受けて行っている事業もかなりありますし、それは市の予算を通してというよりは、コンソーシアムが直接受けてとか、あるいは大学で受けてとか、この前ちょっとカウントしてもらったことがあるのですが、大体 50 ぐらいの国のプロジェクトとかそういう指定を受けてますので、そういったものも有効に活用しながら、岩見沢の未来作りという観点で取りまとめています。

(北海道新聞)

かなり幅広ですね。

(市長)

幅広ですよ。自分でも本当にそう思いますが、ただやはりバランスよく。前からそうなのですが、一点豪華主義とかそういう感覚ではなくて、必要なことは必要なバランスを見ながらやっていくということで考えて、それは心がけました。ただ、やるからには、相乗効果が、シナジーが効かせられるようなことは常に意識しながらやっています。

(北海道新聞)

そこだけで終わるということではなくて、流れが生まれるとかですね。

ちなみに病院の方、課題というふうにおっしゃっていて、夏までには方針をとおっしゃっていましたが、何月ぐらいとかその時期的なめどはもう見えてきましたか。

(市長)

何月とまではいきませんが、夏頃には、ということになるかと思います。一般的などころ、7月8月ぐらいですかね。まだ何月というところまではいきません。はい。

(プレス空知)

今のその夏頃というのがどうしても、今年でいくと市長選の告示、投開票日のあたりも含めての夏というところになってしまうので、その前なのか後なのかは。

(市長)

選挙とは全く関係ないです。私どもとしてはできるだけ早い時期にまとめたいのは山々ですし、本来でしたらこういうラピダスの影響ですとか、特に建築費に関してはラピダスとか札幌の再開発とか、ここにきて北海道新幹線の札幌延伸の関係で札幌開発事業が全く読めないような状況になっています。その中で資材だけはどんどん高くなってきていますから、こういう状況にならない中で病院の建設事業を着実に進めたかったのは、3年、4年前には本当にそういう状況だったのですが、非常に不確定要素、変数が多くなっていますので、できるだけ早く道筋をつけたいというのは山々です。

ただ、今、物理的な作業もかなりのボリュームですので、それを全体でフィッティングしていくというのは一定の時間が必要なので、それで夏ごろという表現ですが、決してその選挙のためにそう言っているわけではなくて、やはり 10 年の開院に向けてということであれば、そのスケジ

ュール感でしっかりやっていきたいということになります。

(プレス空知)

先日職員の方が記者会見を開きました。岩見沢地区消防事務組合の方が集団提訴されたという件ですけれども、詳細はここで改めてお話するまでもないと思うので、それに対しての市長の受けとめ、コメント何か一つあればいただきたいなと思います。

(市長)

岩見沢地区消防事務組合の管理者という立場ですけれども、個別案件になりますし、また提訴したということですから内容については基本的に申し上げることは差し控えますけれども、ただ私どもは消防事務組合として適切にきちんとお支払いをしていますということです。そこにいろいろ見解の相違というか、私どもとしては適切に支払っているということに尽きると思います。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報室)